



みんな楽しく みんなでもチャレンジ みんなまる笑顔の

みんなまのこ

南有馬小学校だより No.18

令和8年9月11日(金)

南島原市立南有馬小学校

校長 大草 修三

2学期の重点取組 ～言葉を大切にしよう～

2学期が始まって約2週間が経ちました。子どもたちは少しずつリズムを取り戻し、元気に学校生活を送っています。これも、保護者の皆様のご家庭での支え、地域の皆様の地域における見守りのおかげです。ありがとうございます。

さて、南有馬小学校が子どもも教職員も2学期に力を入れて取り組むことは「言葉を大切にしよう」です。この2学期の取組については、9月1日の始業式でも子どもたちに伝えましたが、具体的にどのようなことに取り組むのか紹介します。

1 授業で子どもたちの言語活動を充実します

1日の学校生活の大半は、授業です。授業が楽しく、達成感・成就感があるものであれば、子どもたちの学校生活は充実したものになります。そのために、各教科の授業の中で、子どもたちが「読む」「書く」「話す」「話し合う」「考える」「相談する」といった言葉を使った活動(言語活動)を豊かにしていきます。

2 自己有用感を高めます

「自分がやっていることが学級のみんなの役に立っている」「自分はこの学校の大切な仲間の一人なんだ」といった感情を自己有用感といいます。自己有用感を高めること

によって、「学校が楽しい」「明日も学校に行きたい」と思えるようになります。そのために、子



どもたちの言葉や行動を「認める」「ほめる」「価値づける」ことに学校生活全体を通して取り組んでいきます。

3 語彙力を高めます

知っている言葉の量と、その言葉を状況に応じて適切に使いこなす力のことを「語彙力」といいます。自分の気持ちや考えを適切に表現することや先生、友達の思いや考えを的確に理解すること、本に書いてある内容を正しく読み取るなど、社会生活を営む上で多くの言葉の意味とその使い方を理解しておくことは、豊かな人間関係を築くためには必要です。あらゆる機会を通じて、子どもたちの語彙力を高めます。

2学期は、以上の3点を共通の南有馬小学校の教育活動の共通実践として取り組んでいきます。ご家庭や地域におかれましても、「言葉を大切にしよう」という2学期の目標を少しでも意識していただければ幸いです。ご協力、よろしくお願いします。

夏休み作品展 開催中！



9月9日(水)から30日(水)まで、子どもたちが夏休み期間中に取り組んだ絵画や工作、習字、自由研究といった作品を、校舎2階と3階の中央廊下を中心に展示しています。

力作ぞろいです。子どもたちの頑張りを、是非ご覧ください。



かたつむりチャレンジ スタート!



9月8日(火)から「かたつむりチャレンジ」をスタートしました。「かたつむりチャレンジ」とは、一輪車や鉄棒、的あてなど、様々な運動に目標(ポイント制)をもって楽しみながら取り組むことを通して、子どもたちの体力を向上させる取組です。取組初日から子どもたちは友達と一緒に楽しみながら、あるいは自分で目標をもって取り組んでいました。

うまくできないこともあります、それでも取り組むことに意義があります。この取組の名前のもとになっている

たゆまざる 歩みおそろし かたつむり
という北村西望先生の言葉のとおり、「そのうち必ずできるようになる」と自分の力を信じて、できるようになった自分の姿をイメージして、みなんまの子どものチャレンジは続きます。

ご家庭でも話題にされてみてください。

やさしさ見つけ

ある日の給食の時間、2年生の教室を訪問しました。その日の献立は「シシリアンライス」佐賀のご当地グルメです。子どもたちは大喜びで食べ始めました。そんな中、ある子が食器からご飯粒や具材をこぼしてしまいました。あいにくその子も私もティッシュペーパーを切らしていて、どこかにないか探していると、少し離れた席のAくんが自分のティッシュペーパーを持ってきて、一緒にこぼれたご飯粒を拭いてくれました。Aくんの何気ないやさしさに、心がポッカポカになりました。

Aくん、ありがとう。

ほっとタイム

どうでもいい、私の夏休みの出来事「西方見聞録」第2弾。今回はミュンヘン空港その2です。

何とか保安検査所を通過した私を待っていたのは恐怖の入国審査。ここにもこわもてのおじさんが座っていて、入国する人のパスポートをチェックしていました。緊張しながら待つこと10分。いよいよ私の番です。入国審査官は、パスポートをペラペラめくり、わざとらしく首をひねって「What is the purpose of your visit? (何しに来た?)」と質問しました。私が(旅行って英語で何だっけ?)と考えていると、携行していたAIが「Trip! Trip! (旅行、旅行)」と教えてくれました。私は「Ah trip! (えーと、旅行)」とAIの言うとおりに答えました。すると入国審査官は「Ha? Trip? (えっ、トリップ?)」とトリップとは何かと言わんばかりに聞いてくるではありませんか。私が(ドイツ語で旅行はなんやったっけ?)と考えていると、AIが何を思ったのか「旅行、旅行」と日本語でささやきかけてくるではありませんか。私はまたAIの言うとおりに「Ryoko!」と答えました。入国審査官はますます首をひねって「Ryoko?」と大声で聞き返してきました。私はやけになって「I am Japanese! (私は日本人だ!)」と答えました。入国審査官は「どうしようもない」とでも言うように肩をすくめてパスポートに入国許可のスタンプを押してくれました。最後は大和魂でクリアした入国審査でした。

ちなみに、今回私が携行していたAIは、AI-SAI(愛妻)という極めて優秀なAIです。極めて優秀なAIでも過信してはいけないということを学んだ入国審査でした。